

6月の防除のポイント

令和6年5月27日
東京都病害虫防除所

主な作物の病害虫防除について、お知らせします。

<トマト>

○葉かび病及びすすかび病（図1、2）

半促成栽培において葉かび病の発生が増える時期です。最近では抵抗性品種の導入により、大発生する圃場は少なくなっていますが、葉かび病抵抗性品種を発病させるレースが確認されていることや、症状が類似しているすすかび病が発生している場合もあり、注意が必要です。両病害とも多発すると防除が難しいため、発生を認めた圃場では速やかに葉裏にもかかるよう丁寧に薬剤を散布しましょう。



図1 葉かび病の病徴



図2 すすかび病の病徴

○アザミウマ類

気温上昇に伴い、ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマが増加します。これらのアザミウマ類は葉を加害するだけでなく、果実の白ぶくれ症を引き起こしたり、ウイルス病を媒介したりします。施設トマトの防除対策としては近紫外線除去フィルムの展張と防虫ネットの併用が有効です。薬剤散布を行う際は、一部の農薬に抵抗性が報告されているため、防除指針を参考に有効な剤を選択しましょう。

特に防虫ネットに関しては赤色系で防除効果が高いことが明らかになっていますので、張替えに際しては、導入をご検討ください。

<施設・露地キュウリ>

○べと病及びうどんこ病

巡回調査ではべと病並びにうどんこ病の発生が確認されています。

べと病は気温20～24℃、多湿条件で発病しやすく、今後、曇雨天が続くと多発する恐れがあります。一方、うどんこ病はやや乾燥条件を好み、湿度45～95%で発病するという試験例があります。

いずれの病害も進行すると防除が難しくなるため、初発を見逃さないように圃場をよく観察し、予防的な防除を心がけましょう。

<初夏どりキャベツ>

○ネギアザミウマ、アブラムシ類及びヨトウガ等のチョウ目幼虫

巡回調査ではネギアザミウマの発生は多く、アブラムシ類の発生は少ない傾向ですが、6月も発生しやすい時期のため注意が必要です。また、ヨトウガは中・老齢期に移行していくため、被害が大きくなります。

圃場をよく観察し、発生を確認した場合は、防除指針を参考に適切な殺虫剤を選択して防除を行いましょう。

上記以外の病害虫についてのご相談は、電話（042-525-8236）又はEメール（S0200303@section.metro.tokyo.jp）にてお問い合わせ下さい。